

令和3年度 外国人児童生徒教育研修会(JSL 研修)の開催について【申し込みは終了致しました】

令和3年度 東京学芸大学国際教育センター

外国人児童生徒等教育研修会(JSL 研修会)開催案内

当センターでは、令和3年度も、増加する日本語指導を必要とする外国人児童生徒等を受け入れている学校での日本語指導、学習指導、受け入れ体制の整備に資することを目的として、JSL 指導者研修を実施します。研修会は、5月・6月・10月の3回とし、5月・6月は遠隔会議方式によって、10月は遠隔会議方式と本学での対面方式の同時開催によるハイブリッド型研修(参加者はいずれかを選んでの参加)で行う予定で現在準備しております。

研修会に参加をご希望される場合は、下記に示す要領によりお申込みください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時と開催方法

下記のとおり実施します。日程によって開催方式が異なりますのでご注意ください。

	日程	時間	開催方式
第1回	5月8日 (土)	13:00~17:00(予定)	遠隔会議方式 (Web 会議サービス Zoom によるオンライン開催) 終了
第2回	6月19日 (土)	13:00~17:00(予定)	遠隔会議方式 (Web 会議サービス Zoom によるオンライン開催)
第3回	10月16日 (土)	13:00~17:00(予定)	対面方式(東京学芸大学)+遠隔会議方式(Web 会議サービス Zoom によるオンライン開催)によるハイブリッド型方式(予定)

※事前の講義動画の配信もあります。

※JSL カリキュラムの実践力を高めるためのコース(通称 B コース)は、実施しませんのでご了解ください。

参加対象者

各回とも定員:70名

- 国、公、私立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校等の教員で次に該当する方
 - 今年度初めて日本語指導を担当されている方
 - 日本語指導の経験が浅く、研修の機会が少ない方
- 今年度から外国人児童生徒の在籍する小学校・中学校・高等学校・中等教育学校等を担当される管理職(学校長・副校長等)
- 今年度から外国人児童生徒の在籍する小学校・中学校・高等学校・中等教育学校等を所管する教育委員会担当者(指導主事等)

※研修会開催の趣旨に鑑み、定員を超えて参加希望があった場合、

- 「初めて日本語指導を担当される学校教員」
- 「日本語教育・日本語指導に関する研修を受けたことのない日本語指導の学校教員」

を優先いたします。また、「大学・大学院等で日本語学・日本語教育の主専攻や副専攻」、「日本語教師養成講座420時間修了」、「日本語教育能力検定試験／全養協日本語教師検定合格」などに該当する場合は、「研修を受けた」とみなし、他の参加者を優先いたしますので予めご了承ください。加えて、申し込み情報に虚偽を記載したことが発覚した場合、その時点で、その決定許可を取り消す場合があります。

※研修会日程のうち、1回のみ参加も可能です。ただし、希望者が多数だった場合、全ての日程にご参加いただける方を優先します。

参加費

無料 ※通信にかかる費用等は自己負担となります。

プログラム

研修内容は下記に示すとおりです。外国人児童生徒等教育に初めて関わる方に基礎的な情報を提供するとともに、自信をもって指導に取り組めるように、具体的な指導方法について研修を行います。

5月8日(土)

テーマ:外国人児童生徒等教育入門(仮)

事前にオンライン講義を行いますのでご視聴ください。

事前のオンライン講義と当日の研修会前半では、外国人児童と生徒教育の現状と課題や外国人児童生徒等教育担当者の役割、日本語指導や日本語教室・国際学級の運営の基礎について学びます。後半

は、小グループに分かれて経験豊富な講師とともに、後半は現状の課題を共有し、参加者の皆様が1年間の見通しを持っていただけるような構成とします。

6月19日(土)

テーマ:日本語指導・授業づくりの実際(仮)

事前にオンライン講義を行いますのでご視聴ください。

事前のオンライン講義と当日の研修会前半では、講師から、日本語指導の一つの形態としてJSLカリキュラムについて事例を紹介していただき、日本語と教科内容を統合した学習指導の考え方を学びます。後半では、小グループに分かれて具体的な単元について、目標の設定や活動の展開を検討するミニワークショップを行います。

10月16日(土)

テーマ:「児童生徒の実態に合わせた指導案・授業づくり」(仮)

参加者が選択した単元について、指導案を発表し、他の参加者や講師からのコメントを得て、JSLカリキュラムについて理解を深め、実践力を身につけます。

* 詳細につきましては東京学芸大学国際教育センターホームページ(<http://crie.u-gakugei.ac.jp/>)にて、随時ご案内します。

【JSLカリキュラムとは?】

JSLカリキュラムは、日本語指導の場面でも、日本語の語彙や文法の学習に留まらず、教科学習や学校生活と関連付けた内容を扱い、「日本語で学ぶ力」を身に着け、各教科での学習に参加できるようにするために考案されました。

外国人児童生徒は、来日して2年もすると日常的で身近な話題であれば、日本語でのコミュニケーションはある程度取れるようになります。しかし、学習面では、日本語を母語する生徒と同等に理解できるようになるまで5年から7年かかると言われています。これは、日本語そのものの理解に加え、指導方法の違いなどによって、授業への参加や理解に困難が生じているためです。今日では、日本生まれ日本育ち、あるいは、日本国籍の児童生徒が増加しており、幼少期の言語環境や日本語の習得状況によっては、同様の課題を抱えていることがあります。このように、言語文化的な背景を配慮し、長期的な視点をもって指導が重要となっており、JSLカリキュラムはその一助となるものです。

参加申し込み方法

- 参加申込受付期間は 2021年4月1日(木)~4月21日(水)です。

- 申し込みは年度当初のみとなりますので、研修会日程をご確認のうえお申し込みください。
- 研修会日程のうち、1回のみのご参加も可能です。ただし、希望者が多数だった場合、全ての日程にご参加いただける方を優先します。また参加対象の条件に合わない場合は、参加いただけない可能性がありますので、ご了承ください。
- 第3回の参加形態は参加者ご自身で選択いただけます。

参加申し込み方法

お申し込みは原則、オンラインフォームより受け付けております。なお、今回はオンラインでの実施となりますので、以下の注意点および参加規約に同意していただいた上での申し込みとなります。申し込みの前に、必ずご一読ください。

* オンライン実施に関する注意点 *

研修会はオンラインで開催するため、次の参加条件を全て満たしていることが必須となります。

- 本センターの担当者と連絡可能なメールアドレスをお持ちであること
※資料を送付するため、キャリアメール(@docomo.ne.jp など)はお使いいただけません。
- 当日利用可能なパソコンやタブレットなどの ICT 機器をお持ちであること
※スマートフォンでの参加は操作が困難な場合や資料が見つらい場合があります。非推奨です。
※学校の業務用端末ではセキュリティの都合上、Zoom を使用できない場合があります。お申込み前にご確認ください。
- かつ、パソコンに備え付け、あるいは、外部接続のカメラとマイク(ヘッドセット)等の設備をお持ちである(あるいは当日までに購入予定である)こと
- 安定したインターネットの接続環境があること

* 研修会への参加規約 *

1. 本研修会では参加者の皆様が安心して参加できるよう、カメラをオンにした状態にする、氏名とご所属を明示していただくなどのご協力をいただく場合があります。
2. 研修会実施中に、誹謗中傷や不適切な言動を繰り返した場合には、管理者の権限でオンライン会議室から退出させる場合があります。
3. 研修会に関連して配布する資料や動画の著作権を保護するため、オンライン会議中の画面を撮影したり、事前に配布した資料を参加者以外に転送することは厳に慎んで下さい。
4. 不正なアクセスを防ぐために、参加者のみに通知されている情報(URL や動画閲覧用パスワード)などは、決して外部に漏らさないでください。
5. 参加者とのやり取りから得られた情報は、個人情報を含んでいる場合があるため、取り扱いには注意してください。
6. 研修会に参加したことに伴う、機器のトラブル等に関して、本センターは一切の責任を負いません。
7. 止むを得ない事情、または、過失などいかなる理由でも、参加者が研修会の一部または全部に参加できなかった場合、その補償を本センターに要求することはできません。

8. 本センターでは、今後の研修会の改善のため、研修会実施中の様子の一部または全部を録画することがあります。予めご了承ください。

令和3年4月1日

東京学芸大学国際教育センター 所員一同

<お申し込み方法>

【オンラインフォーム】

お申込みは終了致しました。

【重要】お申し込み後のスケジュール

2021年4月1日(木)	申込開始
2021年4月21日(水)	申込締切 同日 23:59 以降、フォームにアクセスすることは出来ません。 ※順次お申し込まいただいたメールアドレスに受付完了の通知をお送りいたします。4/22(木)正午までに本センターより通知のない方は下記メールアドレスにご連絡ください。
2021年4月27日(火)	参加可否の通知 ※お申し込みいただいた全ての方に参加の可否についてご連絡いたします。 なお、ご参加いただく方には、事前オンライン講義の視聴等についてもご連絡いたします。

<注意点>

- ・ 申し込みは年度当初のみとなりますので、3日程のご都合を確認の上、お申し込みください。
- ・ 3日程のうち、一部にのみご参加いただくことも可能ですが、応募者が多数だった場合、3日程全てにご参加いただける方を優先いたします。

【お願い】個人による本研修会に関する案内のメーリングリストや SNS 等への転載はお控えください。

問い合わせ先

東京学芸大学国際教育センター 教務室 (受付担当:新貝 美恵子)

MAIL c-event@u-gakugei.ac.jp

TEL 042-329-7717

【対応可能曜日・時間】毎週火・木・金曜日 9:00~16:00

※なお、本件の問い合わせについては原則としてメールでお願いします。また連絡を頂いても、直ぐにお返事できない場合がございますので、ご了承ください。

【終了いたしました】令和3年度 第42回海外子女教育セミナー開催

第42回 海外子女教育セミナー

ゆらぐ世界と海外子女教育

海外子女教育セミナーは、海外の日本人学校や補習授業校への派遣を希望している教員を主な対象として、海外子女教育の現状や課題、在外教育施設における教育への取り組み、派遣教員の現地での生活などについて、より深く知り、考えていただくことを目的としたセミナーです。今年度は、文部科学省による講演のほか、派遣経験者による実践報告、来場者との質疑などを予定しております。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、私たちの暮らしや海外とのつながり方にも大きな変化が生じています。このような世界規模での大きな「ゆらぎ」を背景として踏まえながら、在外教育施設におけるより良い教育のあり方について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。日本人学校、補習授業校への派遣に関心のある国内の教員はもちろん、現在、在外施設に派遣中の教員、その他、海外子女教育に関心をお持ちの多くの方のご参加をお待ちしています。

[第42回海外子女教育セミナーチラシ.pdf](#)

日時：2021年11月13日(土)13:00～16:30

開催方法：オンライン開催(Zoom)

定員：70名

参加費：無料

以下のフォームよりお申込みください。

[お申込みはこちらから](#)

お申込み締め切りは11月5日(金)です。

【お申込みは終了致しました】

<プログラム>

12:30 開場, 受付開始

- 第一部

13:00 開会

13:00～13:05 開会の挨拶 竹鼻 ゆかり(東京学芸大学国際教育センター長)

13:05～13:15 趣旨説明 榊原 知美(東京学芸大学国際教育センター准教授)

13:15～13:55 講演「海外子女教育の現状と課題」

文部科学省総合教育政策局国際教育課国際調整企画官 田中 秀和

13:55～14:05 質疑応答

— 休憩 —

- 第二部

ファシリテーター 見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター准教授)

14:15～15:55 派遣教員による海外での実践報告

1. 川尻 年輝 長野県白馬村立白馬北小学校教諭・前バンコク日本人学校教諭
2. 山中 のぞみ 千葉県柏市立田中小学校教諭・前ベルリン日本人国際学校教諭
3. 滝川 敦善 北海道白糠町立白糠小学校校長・前ナイロビ日本人学校校長
4. 中山 南斗 高雄日本人学校教諭

15:55～16:25 質疑応答

16:30 閉会

【終了いたしました】令和3年度第14回国際教育センターフォーラム開催

令和3年度 第14回 国際教育センターフォーラム

2022年2月5日(土)13:00～16:30

【お知らせ】

皆様の寛大なご協力頂き、無事終了致しました。

ありがとうございました。

最初の趣旨説明、及び藤野講師の資料は、来週に参加者にお送り致します。

多文化の子どものことばの獲得

－特別支援教育と日本語教育のはざまでゆれて－

近年、日本語指導が必要な児童生徒が、特別支援教育の対象と見られているということがよく言われます。その結果、指導の際に特別支援教育の対象であるように留意されたり、通級指導教室や特別支援教室への通級が勧められたりしているようです。実際に、一部の地域では、特別支援学級や特別支援学校への外国人児童生徒の在籍が、日本人児童生徒の割合より、高くなっているという報告もあります。

多文化・多言語の背景を持つ子どもたちをめぐって、教育現場では、以前から、子どもの学力、行動の実態が、日本語能力、家庭環境、文化的相違の要因か、認知的・情緒的な要因か、判断の難しさがかたられてきました。それが以上のような実態として現れているように思われます。

では、学校で日本語指導が必要な児童生徒の実態を把握し、適切に対応しようとしたとき、どのような視点が必要なのでしょうか。

本センターでは、共同研究プロジェクトとして、小学校に限定し教師へのインタビュー調査を行い、通常の学級や日本語学級・教室で、上記のようにことばの発達に遅れが推定される子どもを教師はどのように見ているのか、何を課題として、どのような支援を行っているのかについて、調査を進めています。特に学習面、生活面、対人関係面を中心に教師への聞き取りを行ってきました。

その結果も踏まえ、本フォーラムでは、小学校、中学校、高等学校において、多言語・多文化背景をもつ児童生徒の指導を行っている先生方から、話題提供を頂きながら、多言語・多文化環境で育つ子どもに適切な指導を行うためには、どのような視点や対応が求められるのか、検討したいと思います。

日時： 2022年2月5日(土)13:00～16:30

開催方法： オンライン Zoom

お問合せ先： c-event@u-gakugei.ac.jp 受付担当：新貝まで

プログラム

総合司会： 榊原 知美(東京学芸大学国際教育センター・准教授)

13:00 開会の辞 竹鼻 ゆかり (東京学芸大学国際教育センター・センター長)

13:05 趣旨説明・調査報告 見世 千賀子 (東京学芸大学国際教育センター・准教授)

13:30 基調講演 「多言語環境で育つ子どもの発達」

松井 智子 (中央大学文学部・教授)

14:10 休憩

14:20 パネルディスカッション

コーディネーター 吉谷武志(東京学芸大学国際教育センター・特命教授)

話題提供

・小学校教師の立場から 藤川 純子(四日市市立笹川小学校・教諭)

・中学校教師の立場から 中村 夏帆(東京学芸大学教職大学院・院生)

・高校教師の立場から 高橋 良子(島根県立宍道高等学校・教諭)

・教員養成・研修等に関わる立場から 増田 謙太郎(東京学芸大学教職大学院・准教授)

コメンテーター 藤野 博(東京学芸大学教職大学院・教授)

16:30 閉会